

作成日 1996年11月27日
改訂日 2018年10月18日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 ポナールキット-WH 補充薬品(B)
製品コード(整理番号) PK15-60
会社名 株式会社 同仁化学研究所
住所 熊本県上益城郡益城町田原2025-5
担当部門 品質保証部
電話番号: 096-286-1515
Fax番号: 096-286-1525
E-mail: info@dojindo.co.jp

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】 該当

物理化学的危険性

酸化性固体 区分3

健康有害性

急性毒性(経口): 区分5
急性毒性(経皮): 分類できない
急性毒性(吸入): 分類対象外
皮膚腐食性/刺激性: 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分2A
呼吸器感作性: 分類できない
皮膚感作性: 分類できない
生殖細胞変異原性: 分類できない
発がん性: 分類できない
生殖毒性: 区分2
標的臓器/全身毒性(単回暴露): 区分2(血液)
区分3(気道刺激性)
標的臓器/全身毒性(反復暴露): 区分2
吸引性呼吸器有害性: 分類できない

環境有害性

水生環境急性有害性: 分類できない
水生環境慢性有害性: 分類できない

【GHSラベル要素】

シンボル: 円上の炎, 健康有害性, 感嘆符
注意喚起用語: 警告
危険有害性情報:
・火災助長のおそれ; 酸化性物質
・飲み込むと有害のおそれ
・皮膚刺激
・強い眼刺激
・生殖能力または胎児への悪影響のおそれ
・臓器の障害
・長期または反復暴露による臓器の障害

注意書き:

- 【予防策】
- ・使用前に取扱説明書等を入手すること。
 - ・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
 - ・熱から遠ざけること。
 - ・可燃物／他の禁忌物質と混合を回避するために予防策を取ること。
 - ・粉じんを吸入しないこと。
 - ・環境への放出を避けること。
 - ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 - ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 - ・取扱い後はよく手を洗うこと。
 - ・保護手袋および保護眼鏡／保護面を着用すること。
- 【対応】
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 - ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当を受けること。
 - ・皮膚についた場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
 - ・取り扱った後、手を洗うこと。
 - ・皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当を受けること。
 - ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
 - ・暴露した場合：医師に連絡すること。
 - ・暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。
 - ・気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 - ・気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けること。
- 【保管】
- ・施錠して保管すること。
 - ・可燃物から離して保管すること。
 - ・容器を密閉して、涼しい所／換気の良いところで保管すること。
- 【廃棄】
- ・内容物／容器は国／都道府県／市町村の関係法令、規則に従って適正に廃棄すること。

【GHSで扱われない他の危険有害性情報】

最重要危険有害性

- 有害性： 飲み込んだり、吸入したり、あるいは皮膚に触れると有害である。
- 環境影響： 環境に対して影響する可能性がある。
- 物理的及び化学的危険性： 通常の手扱いは、火災の危険性は極めて低い。
- 特定の危険有害性： 情報なし
- 分類の名称（分類基準は日本方式）： 酸化性物質

3. 組成、成分情報

- 単一製品・混合物の区別： 混合物
- 化学名： ポナールキット-WH 補充薬品(B)
- 別名： PONALKIT-WH supplement(B)
- 成分及び含有量： 硝酸カリウム(92%)
その他の成分非公開（規制物質含まず）
- 化学特性（化学式）： KNO_3 （硝酸カリウム）
- CAS No： 7757-79-1（硝酸カリウム）
- 官報公示整理番号（化審法・安衛法）： (1)-449（硝酸カリウム）
- 危険有害成分： 硝酸カリウム

4. 応急措置

吸入した場合：

- ・被災者を新鮮な空気の所に移し、窮屈な衣服部分は緩めて安楽な状態にする。
- ・医師が来るまで身体を冷やしてはならない。
- ・呼吸が停止しているときは直ちに人工呼吸を行なうとともに、医師の診断を受けさせる。
- ・嘔吐がある場合には、頭を横向きにして窒息に注意する。

皮膚に付着した場合：

- ・付着した身体部位を水または微温湯で洗浄する。必要に応じて石鹼等を用いて十分に洗い落とす。
- ・衣服、靴及び靴下等にかかっている時は直ちに脱がせ、それらを遠ざける。
- ・外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断を受ける。
- ・その場で痛み等の症状がなくても、障害が遅れて現れることがあるので必ず医師の診断を受けること

目に入った場合：

- ・直ちに多量の清浄な流水で15分以上洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合には、固着していない限り、取り除いて洗浄する。
- ・洗眼の際、まぶたを指でよく開いて眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・洗眼後は出来るだけ早く医師の診断を受ける。
- ・この製品が眼に触れた場合、寸秒でも早く洗浄を始め、付着した製品を洗い流す必要がある。

飲み込んだ場合：

- ・水でよく口の中を洗浄し、医師の診断を受ける。
- ・水でよく口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水または牛乳を与え、直ちに医療処置を受けさせる手配をする。

応急措置をする者の保護：

- ・救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤： 小火災：水、 大火災：大量の水

使ってはならない消火剤： 粉末消火剤、泡消火薬剤

火災時の特定危険有害性： 窒素酸化物を発生する

消火方法：

- ・消火作業は可能な限り風上から行なう。
- ・移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・容器が熱にさらされているときは、移さない
- ・消火が不可能な場合には、その場所から避難し、燃焼させておく
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- ・火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。
- ・消火による放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。
- ・大火災の場合、火災区域に適度の距離から大量の水を散水する。
- ・消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する

消火を行う者の保護（保護具等）： 呼吸用保護具を着用する。

消火作業は、風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：

- ・作業の際は必ず保護具を着用して、製品が身体に付着しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を待避させる。
- ・付近の着火源になるものを速やかに取り除く。
- ・漏出した場所の周囲にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

環境に対する注意事項：

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境に影響を起ささないように注意する。
- ・大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境に流出しないように注意する。

除去方法（回収、中和、廃棄など）：

- ・飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。

二次災害の防止策：

- ・可燃物（木、紙、油等）は漏洩物から隔離する。
- ・容器内に水を入れない

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

- ・作業者は暴露防止のため取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・作業場近くに緊急時に洗眼及び身体洗浄を行なうための設備を設置する。
- ・発散した製品を吸い込まないように、風上から作業する。
- ・作業の都度、容器を密閉する。

注意事項：

- ・密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。
- ・取扱いは換気の良い場所で行なう。
- ・屋外での取扱いはできるだけ風上から作業する。

安全取扱い注意事項：

- ・容器は転倒させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
- ・可燃性物質、還元性物質との接触を避ける。

保管**適切な保管条件：**

- 密封容器に入れ冷暗所に保管する。
- 開栓した容器で再び保管する時は、密栓をよく確かめる。
- 長期間の保管を避ける。
- 可燃物を近くに置かない。
- 耐火設備に貯蔵する。

安全な容器包装材料：

- ・堅牢で不活性な材質の容器を用いる。

8. 暴露防止及び保護措置**設備対策：**

- ・密閉する装置、又は局所排気装置を使用する。
- ・取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明確に表示する。

管理濃度：

未設定

許容濃度

日本産業衛生学会（2008年度版）：記載なし

ACGIH（2006年度版）：記載なし

保護具**呼吸器用の保護具：**

防塵マスク

手の保護具：

保護手袋、添付のピンセットを使用する。

目の保護具：

保護眼鏡、ゴーグル等

皮膚及び身体の保護具：

保護服（長袖作業着）

適切な衛生対策：

マスク等の吸着剤の交換は定期的又は使用の都度行なう。

9. 物理的及び化学的性質**外観（色／形状）：** 白色固体**臭い：** データなし**pH：** データなし**融点：** 333—334℃（硝酸カリウム）**沸点：** データなし**引火点：** データなし**爆発範囲：** データなし**蒸気圧：** データなし**蒸気密度：** データなし**比重：** 2.109（16℃）（硝酸カリウム）**溶解性：** 水に可溶**オクタノール/水分配係数：** データなし**自然発火温度：** データなし**分解温度：** 400℃（硝酸カリウム）

10. 安定性及び反応性**安定性：**加熱や燃焼により分解して窒素酸化物、酸素を生じ火災の危険性を増大させる。
（硝酸カリウム）

反応性： 可燃性物質および還元物質と反応する
避けるべき条件： 加熱、燃焼
避けるべき材料： 可燃性物質および還元性物質
危険有害な分解生成物（一酸化炭素、二酸化炭素、水以外）： 窒素酸化物、酸素

1 1. 有害性情報

急性毒性（経口）： 経口ラット LD₅₀ 3,750mg/kg⁶⁾（硝酸カリウム）
急性毒性（経皮）： データなし
急性毒性（吸入）： データなし
皮膚腐食性／刺激性： （硝酸カリウム）ICSCより。¹¹⁾
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性： （硝酸カリウム）ICSCより。¹¹⁾
呼吸器感作性： データなし
皮膚感作性： データなし
生殖細胞変異原性： データなし
発がん性： データなし
生殖毒性： （硝酸カリウム）RTECSのモルモットでの試験により区分2とした。¹¹⁾
標的臓器／全身毒性（単回暴露）： （硝酸カリウム）RTECSのラット経口投与試験で、メトヘモグロビン血症を発祥したとの記述があることより血液が標的臓器と考えられる。また、気道刺激性あり。¹¹⁾
標的臓器／全身毒性（反復暴露）： （硝酸カリウム）ヒトで、12日間経口摂取後、メトヘモグロビン血症を発祥したとの記述があることから、血液が標的臓器と考えられる。¹¹⁾
吸引性呼吸器有害性： データなし

1 2. 環境影響情報

生態毒性： データなし
残留性／分解性： データなし
生物蓄積性： データなし
土壌中の移動性： データなし

1 3. 廃棄上の注意

化学物質（残余廃棄物）：
・水に溶解し、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。
・処理施設がない等の理由で廃棄できない場合は、都道府県の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理する。
・廃棄物の処理を委託する場合、処理業者に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。
汚染容器・包装：
・関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制
国連分類： IMDGクラス5.1（硝酸カリウム）、ICAO/IATAクラス5.1（硝酸カリウム）
国連番号： 1486（硝酸カリウム）
指針番号： -
容器等級： PGIII
国内規制： 消防法
輸送の特定の安全対策及び条件：
・輸送前に容器の破損、腐蝕、漏れのないことを確かめる。転倒、落下、損傷の内容に積み込み、荷崩れ防止を確実にこなう。
・該当法規に従い、包装、表示、輸送を行なう。

1 5. 適用法令

化学物質管理促進法： 非該当
労働安全衛生法： 施行令 別表第1第3号 危険物 酸化性の物（硝酸カリウム）

毒物及び劇物取締法：	非該当
消防法：	危険物第1類 硝酸塩類第1種酸化性固体(硝酸カリウム)
化審法：	非該当
航空法：	施行規則第194条危険物酸化性物質(硝酸カリウム)
船舶安全法：	危規則第2条危険物等級5.1酸化性物質(硝酸カリウム)

1 6. その他の情報(引用文献等)

- 1) 国際化学物質安全性カード(国立医薬品食品衛生研究所(NIHS)データベースより)
- 2) 化学物質の危機・有害便覧 平成11年度版(中央労働災害防止協会)
- 3) 緊急時応急措置指針(日本化学工業協会)
- 4) 日本産業衛生学会誌50巻(2008年度版)
- 5) 2006 TLVs and BEIs (ACGIH)
- 6) 15509の化学商品(2009年版)(化学工業日報)
- 7) Merck index 13th Edition(2001)
- 8) 化学物質安全性評価シート((財)化学物質評価研究機構)
- 9) 化学物質情報管理センターデータベース(独立行政法人製品評価技術基盤機構)
- 10) 神奈川県化学物質安全情報提供システムデータベース(kis-net)
- 11) GHS分類結果データベース(独立行政法人製品評価技術基盤機構)

成分：	硝酸カリウム	その他	混合物
含有量(%)：	92	8	-
化学式：	KNO ₃	-	-
CAS No.：	7757-79-1	-	-
官報公示整理番号(化審法・安衛法)：	(1)-449	-	-
酸化性固体：	区分3	区分外	区分3
急性毒性(経口)：	区分5	区分外	区分5
急性毒性(経皮)：	分類できない	区分外	分類できない
急性毒性(吸入)：	分類できない	区分外	分類できない
皮膚腐食性・刺激性：	区分2	区分外	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	区分2A-2B	区分外	区分2A
呼吸器感作性と皮膚感作性：	分類できない	区分外	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない	区分外	分類できない
発がん性：	分類できない	区分外	分類できない
生殖毒性：	区分2	区分外	区分2
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)：	区分2(血液)、 区分3(気道刺激性)	区分外	区分2(血液)、 区分3(気道刺激性)
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)：	区分2	区分外	区分2
吸引性呼吸器有害性：	分類できない	区分外	分類できない
水生環境急性有害性：	区分外	区分外	区分外
水生環境慢性有害性：	区分外	区分外	区分外

- ・全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。
- ・また新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。
- ・重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく考慮されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。
- ・なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。
- ・また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。